

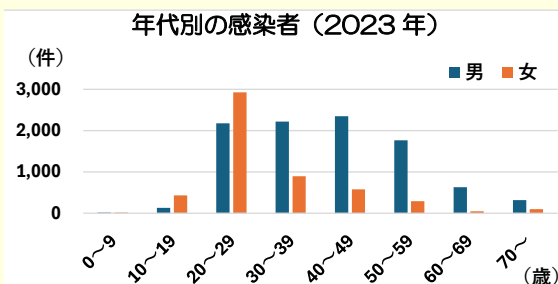
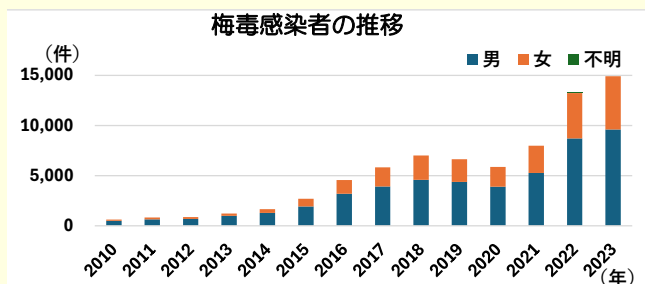


ばいどく

梅毒の危険性と検査の重要性

梅毒の感染者数が増えています

- ・〔左の表〕梅毒感染者の報告件数は、近年急激に増加（↑）。
- ・〔右の表〕年代別では、男性は20～50代、女性は20代に多く見られます。



厚生労働省「梅毒の発生状況について」および国立感染症研究所「日本の梅毒症例の動向について」より政府広報室が作成したものを参考に作成

梅毒は死に至ることもある性感染症です

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされる性感染症。主に不特定多数の人との性行為により、口や性器などから感染。病期は第1期から第3期に分けられます。

第1期
(感染後、約3週間～3ヶ月で症状が現れる)



現れた症状が2～3週間で消える

- ・口や性器にしこり
- ・太ももの腫れなどが見られる

無症状期

第2期
(感染後、約3ヶ月～1年で症状が現れる)



現れた症状が数週間から数ヶ月で消える

- ・手や体に発疹
- ・性器に膨らみ
- ・発熱、疲労感などが見られる

無症状期

第3期
(感染後、約3～30年で症状が現れる)



- ・全身で炎症が進行
- ・皮ふや骨などに柔らかいこぶなどが見られる

治療せず放置すると、約3～30年の間に心臓や血管など複数の臓器に異常が起こり、死に至ることもあります。また病気の進行中、一時的に症状が消える「無症状期」があるため、治ったと勘違いする人がいます。自己判断せず、直ぐに治療することが重要です。

性行為の際にコンドームを使用すると高い確率で感染を防ぐことができますが、100%ではありません。

検査で感染の有無が分かります

- 保健所
治療はできませんが、無料・匿名で検査を受けられます。
- 医療機関
費用はかかりますが、検査だけでなく、その日のうちに治療を開始できます。

梅毒は治療で完治可能です。しかし、パートナーも感染していたら、再び梅毒に感染してしまいます。そのため、梅毒に感染したかな？と思ったら、必ずパートナーと一緒に検査や治療を受けてください！



参考：政府広報オンライン「梅毒患者が急増中！検査と治療であなた自身と大切な人、生まれてくる赤ちゃんを守ろう」
病気がみえる vol. 6 第2版 (メディックメディア)

健康やお薬などについて、気になることがある方は、相談薬局・出張相談会で薬剤師に気軽にお尋ねください。

《出張相談会 保健室に学校薬剤師が来ます》
ドラッグレターの内容、医薬品や健康、薬物乱用などについて、相談・聞きたいことがある人は保健室まで！
7月8日(火) 12時35分～13時20分

作成・発行元 北陸大学薬学部
教授 大柳賢津夫(学校薬剤師)
准教授 岡本晃典(薬剤師)
5年生 中松奨悟

